

AIC-Japan Newsletter



発行人

特定非営利活動法人 AIC-Japan
〒655-0046 兵庫県神戸市垂水区舞子台8-20-1
E-mail aicjapanstvincent@yahoo.co.jp

Vol.13
November, 2016

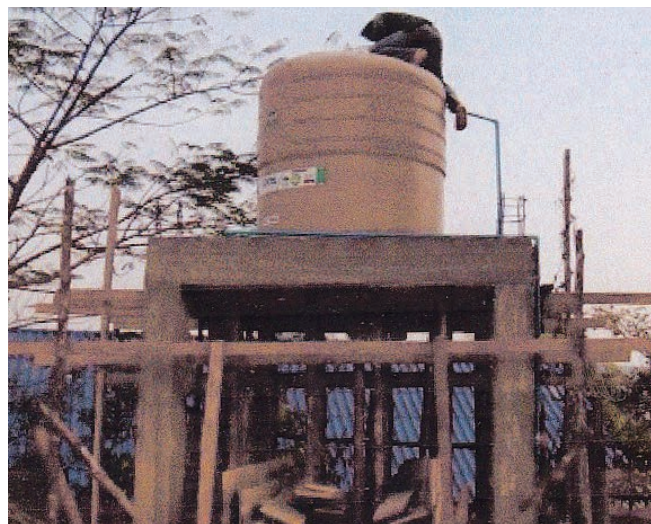


今年も猛暑が続き、各地でゲリラ豪雨が記録されましたが、一転して秋を飛び越え冬支度をはじめめる季節になりました。四季のある日本らしさが少なくなってきたように感じますが、身近な小さな秋を見つけ、自然に感謝しながら過ごしたいと思うこの頃です。さて、今号はラオスから届いた「電動井戸」のレポートです。現地でも試行錯誤を繰り返し進めています。やっとご報告できるようになりました。ご支援いただいたみなさま、ありがとうございました。

ラオスからの報告 — 電動式ポンプの井戸 —

AIC-Japanは、2014年にお伝えしたようにラオスのビエンティアン、ヒンヘアップ地区ナワイ村に電動式ポンプの井戸を設置するため、タイのAIC経由で約90万円の支援金を送りました。井戸の掘削は2014年3月から行われ、水源地38メートルに達したところで、きれいな水がでてきました。一時的に設置された電気ポンプで水を吸い上げ、きれいな水の供給が村の人たちに直ちにできるようになりました。それ以来、3カ月ごとに井戸の水質や水のレベルを監視し、貯水槽から電気ポンプで十分な量の水がひきあげられているかどうかを確認しました。

しかし、この井戸の建設に従事してくれる村の人々は、生活のために農業を営んでいる人たちなので、種まきと収穫の時期である6月から9月までは作業を休止し10月に再開、12月に終了するというスケジュールで進めていきました。



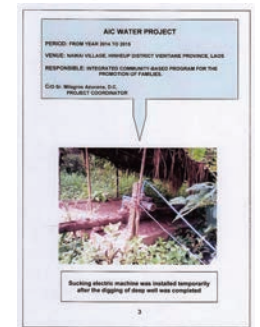
さらに水の供給を安定させるために、プロジェクトスタッフと村のリーダーが協議し、最初のプランであったセメントの貯水槽を作るかわりに、3千リットルの容量の既成のゴムの貯水槽を購入することを決定しました。2015年の1月に新しいゴムの貯水槽が設置され、電気ポンプが取り付けられました。しかし、水源地につながる10本のパイプが詰まってしまったため、その穴を広げるためにさらに約21メートル井戸を掘ることが必要になり、電気ポンプを引き出し、井戸を掘削した後、再び設置するという作業を行いました。このように現地では試行錯誤を繰り返しながら、現在もプロジェクトを進めています。私たちAIC-Japanは、これからもラオス支援を続けていきたいと考えています。どうぞ引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。



シスターミラと話し合いをする村の人たち



村の人たちは農業に従事する人たちです



プロジェクトに関する報告書

日本の子どもの貧困 Report

北島由理

最近「子ども食堂」という名前をよく耳にし、ニュースでも日本の子どもの貧困について取り上げられるようになりました。AIC-Japan が支援しているアジアの子どもたちは、生きるための環境が確保されていない「絶対的貧困」と呼ばれるものですが、日本の場合は平均所得の半分以下の世帯が抱える「相対的貧困」と呼ばれるものがほとんどで、全国どの地域にも存在する貧困です。

2009年が子どもの貧困元年と言われており、当時の政府（民主党）は7人に1人の子どもが貧困だと発表しています。前年のリーマンショックが原因の一つだと考えられていますが、それ以前のバブル時代（1980年代）にも10人に1人の子どもが貧困というデータがあり、その数は年々増加しているのです。

また、日本の教育費は家計が負担しなくてはならないため、奨学金制度（ローン）を利用した学生は「借金」を抱えて卒業することになります。しかし、非正規雇用が増え、若者の貧困も深刻です。彼らが親になり生活保護の申請をしても、親戚がいるとそちらを頼るように進められるそうです。子どもたちの貧困は、そのまま親の貧困なのです。

しかし、日本の子どもの貧困は経済格差だけではなく、育児放棄（ネグレクト）が引き起こしている場合もあります。

とくに幼少期に虐待を受けていたシングルマザーは孤立し「孤育て」になるケースが多く、密室の中では自身も同じことを繰り返してしまう（＝他の方法を知らない）という報告もされています。あまりニュースでは報道されませんが、心中は年間40人、虐待は40～50人とわれ、小児科学会の発表では虐待は310人と予想されていて実態はよくわかっていません。

AIC-Japan は、今までアジアの発展途上国に目を向け支援を続けてまいりました。しかし、一人親世代の貧困率が先進国ではワースト1位になり、国連からは「子どもの声が社会に反映されていない国」と指摘されている現状を踏まえ、これからは日本を含めたアジアに対して、できる支援を続けていきたいと考えています。今後ともご支援の程、よろしくお願いいたします。AIC-Japan ではともに活動するメンバーも常に募集しています。

日本の子どもの支援を続けているNPOのご紹介

NPO法人子どもの里

<https://www.eonet.ne.jp/~kodomonosato/>

NPO法人CPAO（シーぱお）

<http://cpao0524.org/wp/>

子どもの里

京極千穂

今回は、私の見た「こどもの里※」の一日を書きます。釜ヶ崎にある「こどもの里」の家の前におっちゃん相手のお店を月一回開きます。9月4日（日）に私はこのお店の販売を手伝いにいきました。私たちがお昼を食べて子どもの里へ着いたときには、早スタッフ皆さんの手で品物は並べてありました。下着類、ずぼん、シャツ、スニーカー、音楽のCD、石鹸、タオル、その日はフトンもありました。一番の売れ筋は石鹸とタオルです。これらの品物は支援者やご理解ある方々からの寄付が大半です。午後一時を過ぎる頃から子供たちがぼつぼつきはじめます。沖縄出身のサキちゃん、マキちゃん姉妹が店に遊びに来て前をおっちゃんが通ると「いらっしゃ〜い」と声をかけてくれます。私はまだ新米なので、子ども達を叱るタイミングがわかりません。スタッフの動きや叱り方をみて学んでいるところです。

一人の女子高校生が「お手伝いにきました」と来て、すぐに子供たちと遊び始めました。三時過ぎたころから店の前の道路に子供たちが集まってきました。スケボーに乗った高校生、小学生に男女、未就学の子供達。さあ、そうなるやうに高校生はふざけあうし、小学生同士けんかが始まるし、三輪車の取り合いはあるし、大声で泣く子はいるしで大変な騒ぎです。これからスタッフのお兄さ



月1回のお店は町のおっちゃんがお客さん

※「子どもの里」

1977年、釜ヶ崎の子どもたちに健全で自由な遊び場を提供したいとの思いから、子どもたちの遊び場（ミニ児童館）「子どもの広場」として「聖フランシスコ会『ふるさとの家』」の2階の一室で始まりました。2015年にNPO法人に。

<https://www.eonet.ne.jp/~kodomonosato/>

んとボランティア数名の若者と一緒に近くに公園に遊びに行くのです。「さあ、出発」と号令がかかったとたんに「おしっこ」とげんちゃん（笑）。それから10分後に無事全員出発。静かになったお店でスタッフに品物の並べ方や値札のつけ方を教えてもらい午後4時半過ぎおばあさんの私は失礼しました。



ボランティアのお兄さんと図書部屋で



1階の遊び場はいつも大騒ぎ



食事の用意をする子どもたち

インドの児童労働

インドで「13歳以下の子どもの労働を禁止する」という法案が成立しましたので、AIC-Japanの里子のお世話をしてくださっているSr.Roseにお尋ねしました。Roseからのお返事をご紹介します。

皆様お元気ですか。私たちはみんな元気です。今回子どもと児童労働に関して少し情報をお送りします。「子ども」とは14歳に満たない人間のことを意味します。

インドの児童労働は禁止されていて、工場、鉱山で働く子どもたちや危険な労働をすることは禁じられています。子どもたちは14歳までは義務教育を受けることになっています。子どもたちを有害な労働に駆り立てるのもっとも重要な要素は人手不足と、学校教育の質が十分でないのと貧困です。多くのコミュニティー、特に田舎の地域では十分な学

校の施設を所有していません。学校があったとしても、両親が子どもたちを働かせるために学校へやることはせず、子供たちはわずかなお金を稼いで家計を維持しています。私たちのケアの下にいるすべての子どもたちは児童労働をしていません。15歳以上になってこの施設をでるときには、彼らは学業を修了し、仕事を得ています。現在はすべての子どもたちが学校に通っています。児童労働は許されていません。

愛と祈りをこめて ローズより

滞日外国人支援

産婦人科医、産業医
長谷川禎子

～まずは、医療の現場から～

日本語の不自由な外国人患者さんとの出会い

私が、医師になって、3年目のことです。勤務先の病院の産婦人科外来に、南米出身の女性患者さんが、来られました。日本語が少しできるという職場の女性と一緒にしました。患者さんご本人は、日本語ダメ、英語も不得意、とのことでした。数日前からデリケートな部分が、かゆくてたまらない！という訴えでした。ご本人さんが持参された「日本語—母国語対比表」と、付き添いの方の通訳で、患者さんの言いたいことは、なんとなく分かりました。診察の結果、診断は容易につき、塗り薬を処方することにになりました。

さて、まずは、薬の塗り方を伝えねばなりません、ご本人さんが持参されていた対比表の中に、私の言いたい単語は、なかなか見付かりませんでした。また、付き添いの方は、私の日本語での説明に対し、首をかしげることが多く、どこまで、伝わっているのか、とても不安でした。日常でのケアの方法、再検査や再発防止についてなど、、患者さんに伝えておきたいことは、いくつかありました。日本語でなら、あつという間に終わる説明も、身振り手振りを交えながら、とても時間がかかりました。

ただ、幸い診察室を出られる時には、患者さんは安心されたのか笑顔でした。

私は、それから間もなく病院を異動になり、その患者さんが再検査に来られたか否かは分かりません。ただ、後年、私がスペイン語を習おうと思ったのは、この時の体験が大きいです。南米は、ブラジル（ポルトガル語）を除きスペイン語を母国語とする国が多いので。

カトリック教会と中南米出身者

中南米はブラジルを含め、カトリック信者さんが多いです。街のあちこちに、田舎に行っても、カトリック教会があります。大阪にあるカトリック玉造教会では、ポルトガル語のミサもあり、在日外国人（特にブラジル人）の信者さん達が、次々に集まって来られます。そして、カトリック信者の多い中南米の方は、フィリピンもですが、マリア様が大好きなようです。

(つづく)



カトリック玉造教会（大阪）



教会のステンドグラスとマリア様

チャリティーコンサートを開催

熊本地震・東日本復興支援・アジアの子どもたちへ

神戸で開催 5月7日 @新長田ピフレホール 小川香織

神戸では4回目となったチャリティーコンサート、皆様のおかげで無事開催する事が出来ました。お忙しい中、180名を越す方々にご来場いただき、楽しく賑わいだ会にさせていただきました。毎回参加してくださってる方も初めての方も、本当にありがとうございました。

今回初めての笑い溢れる落語～笑福亭遊方さんに可愛いらしい歌声で和らいだ空気を作っていただいたソリストの栗原さやかさんとピアニストの三原佳奈さん。また新しい出会いをいただきました。そして、前回に引き続き、今年も快くご出演いただいた、ホッと太鼓さんにポップコーラスさん。たくさんのご縁が繋がっていくことに感謝です…。これからも、楽しく、少しでも役に立つ会にしているために、みなさまと共にこれまで以上に活気ある活動にしていけることを願っております。

メンバーは、それぞれ仕事、生活もある環境での活動になります。力不足なことも多々ありますが、できることをできる時に、楽しく、コツコツと続けていきたいと思っております。一緒に活動していただける方、コンサートに出演していただける方、資金援助していただける方等々…いつでもお声かけ頂けたら幸いです。どうぞよろしく願いいたします。



恒例は和太鼓とコーラス



美しい歌声とピアノ演奏



月亭遊方さんの創作落語

尚、収益・支援先の詳細に関しては、次号のニュースレターでご報告させていただきます。

和歌山で開催

6月1日 @屋形町教会

和歌山のチャリティーコンサートは今年で12回を迎えました。演目はマリンバ、箏、ソプラノ、キーボード演奏と楽しい手品。お御堂でのコンサートは、素敵な音色を醸し出し、満員の会場にはいつも楽しく穏やかな時間が流れます。



恒例になった屋形町教会でのコンサート

ご支援いただいているみなさまへ

～来年度からのご支援について～

「水と食べもの」「教育里親基金（インド・フィリピン）」のために会費を納めていただいている皆様、あたたかいご支援心より感謝申し上げます。支援をはじめから今年で17年めを迎えました。おかげでAIC-Japanはたくさん子どもたちの笑顔に寄り添うことができました。これは皆様の支えがあってこそ続けることができました。本当にありがとうございます。私たちはこれからも日本を含むアジアの子どもたちの貧困に目を向け、できる支援を続けてまいりたいと思っております。

しかしながら、支援を継続するための活動費を捻出することが、近年非常に困難な状況になり、このたび組織全体の見直しをすることとなりました。支援方法（会費のお支払い方法）も来年度から下記のとおり変更することとなりました。すでにご支援（会費をお支払い）いただいている皆さま方においては、今までどおり可能な範囲でのご支援を続けていただくと幸いです。今後のご支援に関しましては、あらためて事務局よりお手紙でご連絡させていただきますので、どうぞご了承いただきますようよろしくお願い申し上げます。

NPO法人AIC-Japan



フィリピンの子ども達



インドの子ども達

ご支援のお願い

AIC-Japan の活動に賛同していただける方は、下記の中からご希望のご支援をお知らせください。ご入会された方には年2回のニュースレターをお届けしています。私たち AIC-Japan の活動は、皆様のご支援によって成り立っております。どうぞよろしくお願いいたします。

正会員 1,000 円 / 月

AIC-Japan の活動に参加できます

AIC-Japan 定例会議（毎月）に参加することができます。

個人会員 ※ 500 円 / 月

アジアへの支援金として使わせていただきます

支援内容はニュースレターで報告いたします。

教育支援会員 ※
里親会員 ※ 1,500 円 / 月

アジアの子どもたちを支援することができます

現地からのクリスマスカードを年1回お届けします。
現地に行って里子に会うこともできます（ただし個人負担）。

特別会員 ※ 5,000 円 / 月

企業のみなさまからのご支援

2018 年を目処に認定 NPO を目指しています。

- ※は「個人会員」「教育支援・里親会員」「特別会員」は賛助会員になります。
- ※正会員費は活動費として、賛助会員費の20%は支援に必要な経費として使わせていただきます。
- ※会計報告は年1回ニュースレターでお届けいたします。

お支払い方法

半年または一年分まとめてのお振り込みをお願いしております。詳細は事務局までお問い合わせください。なお、正会員費は、月ごとのお支払いが可能です。

事務局

〒655-0046 兵庫県神戸市垂水区舞子台 8-20-1 聖ヴィンセンシオ・ア・パウロの愛徳姉妹会内
[Tel] 080-6134-7684 [E-mail] aicjapanstvincent@yahoo.co.jp

振込先

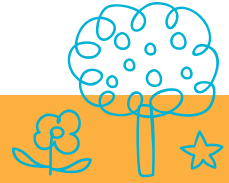
郵便振替口座番号

00950-4-158176

加入者名

特定非営利活動法人 AIC-Japan

お知らせ



秋のバザー — AIC-Japanも参加します!

10/30 (日) 11時～14時ごろ

カトリック
垂水教会神戸市垂水区瑞ヶ丘2-9
078-707-4434

11/3 (祝) 10時～14時ごろ

聖マリアの園幼稚園
コスモス祭神戸市垂水区舞子台8丁目20-2
078-781-7181

11/13 (日) 10時～13時ごろ

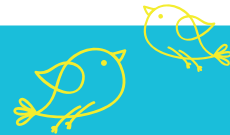
カトリック
北須磨教会神戸市須磨区北落合2丁目3-1
078-742-0322

11/27 (日) 10時～15時ごろ

桃山台地域福祉センター第9回
ふれあいのつどい神戸市垂水区桃山台3-25
078-753-6613

講演会・イベント

AIC-Japan・共催など



12/5 (月) 13時～14時半

共催

ファッションブルエイジング
～女性の健康ミニレクチャー
とバイレフラメンコ体験～会場 タカ・ダンススタジオ
神戸市垂水区舞子台6丁目19-15

参加費 1,000円

講師 長谷川禎子 (産婦人科医師)
巴 維久子 (フラメンコ舞踊講師)

タカ・ダンススタジオさんのご提案でAIC-Japanとのコラボレーションが実現。収益金の一部を寄付していただきます。どなたでも参加できますのでAIC-Japanまでメールにてお問い合わせください。

メール: aicjapanstvincent@yahoo.co.jp

2017 2/5 (日) 14時～16時

主催

平成29年度・第1回講演会
『子どもの問題 ～貧困・虐待～』

講師 稲垣由子氏 (甲南女子大学教授)

会場 カトリック垂水教会
神戸市垂水区瑞ヶ丘2-9

参加費 無料

甲南女子大学の稲垣由子氏をお招きし、日本の子どもの貧困・虐待の現状について語っていただきます。AIC-Japanは情報を発信しながら、できる支援を皆様と考えてまいります。お問い合わせはAIC-Japan事務局まで。

メール: aicjapanstvincent@yahoo.co.jp

特定非営利活動法人
AIC-Japan理事長 北畠由理
理事 石 龍二
理事 小川香織
理事 岸川きよ子
理事 長谷川禎子
理事 播本幸子平成28年度の新役員です。
どうぞよろしくお願いたします。

NPO AIC-Japan 事務局

〒655-0046 兵庫県神戸市垂水区舞子台8-20-1 聖ヴィンセンシオ・ア・パウロの愛徳姉妹会内
Tel.080-6134-7684 E-mail aicjapanstvincent@yahoo.co.jp
http://aic-japan.org

ご支援はこちら

郵便振替口座 00950-4-158176 加入者名 特定非営利活動法人 AIC-Japan

AIC-JAPAN和歌山

〒641-0044 和歌山市今福3-5-21
和歌山に関するご支援・お問い合わせは、073-451-6460 まで